

# 浜通り復興リビングラボ

～サイエンス x 官民共創まちづくり～

令和6年2月28日

富岡町文化交流センター 学びの森

復興庁

原子力災害復興班（まちづくり担当）

参事官 石垣 和子

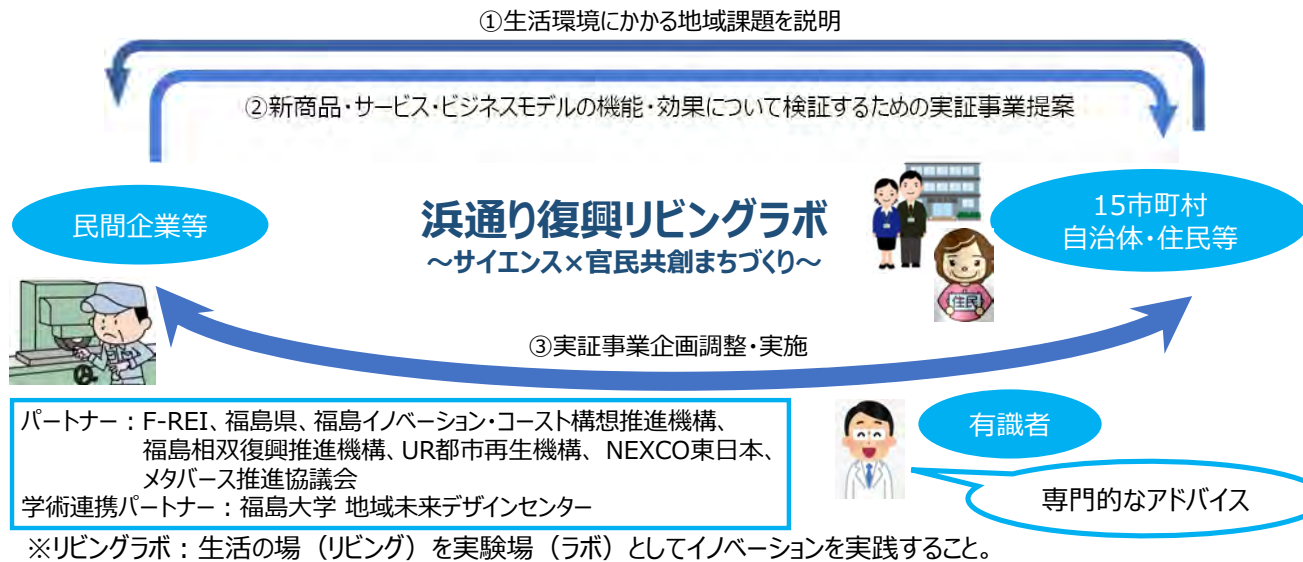
# 浜通り復興リビングラボ ～サイエンス×官民共創まちづくり～

## 背景・目的

- ・福島国際研究教育機構(F-REI)が浜通りに立地することにより、国内外から研究者やその家族が浜通りに移住・定住することが想定され、浜通りでは、従来の住民や移住者はもとより、今後來訪する研究者のためにも**生活環境を向上**させていくことが期待される。
- ・F-REIにおいて、多くの実証事業が浜通り地域において実施されることとなり、**地元の実証事業受入能力**の更なる向上が必要。  
⇒最新のサイエンスやテクノロジーを積極的に活用し、**住宅、医療、教育、交通、買物等の生活環境に係る地域課題の解決**につなげることを目指すとともに、**浜通り地域における実証事業受入能力向上**を支援するため、「浜通り復興リビングラボ」事業を実施する。

## 浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～

住む（住宅）、出かける（交通）、学ぶ（教育）、癒やす（医療）、楽しむ（買物・娯楽等）といった生活環境分野で、産学官の協働のもと、実証事業の企画・実施を行い、**地域における生活環境向上**につなげる。



## R5年度スケジュール

- 8月：実証事業参加企業公募開始  
8月8日 公募企業向け説明会（地域課題共有）  
8月19日 現地視察
- 9月：マッチング会議発表企業決定  
9月19日 第1回シンポジウム  
9月19日 マッチング会議
- 12月：実施プロジェクト決定・発表  
実証事業企画調整  
調整が整った事業から順次実施（実施は次年度以降でも可）
- 2月：専門家による実証事業総評  
2月28日 第2回シンポジウム

今回のシンポジウム！

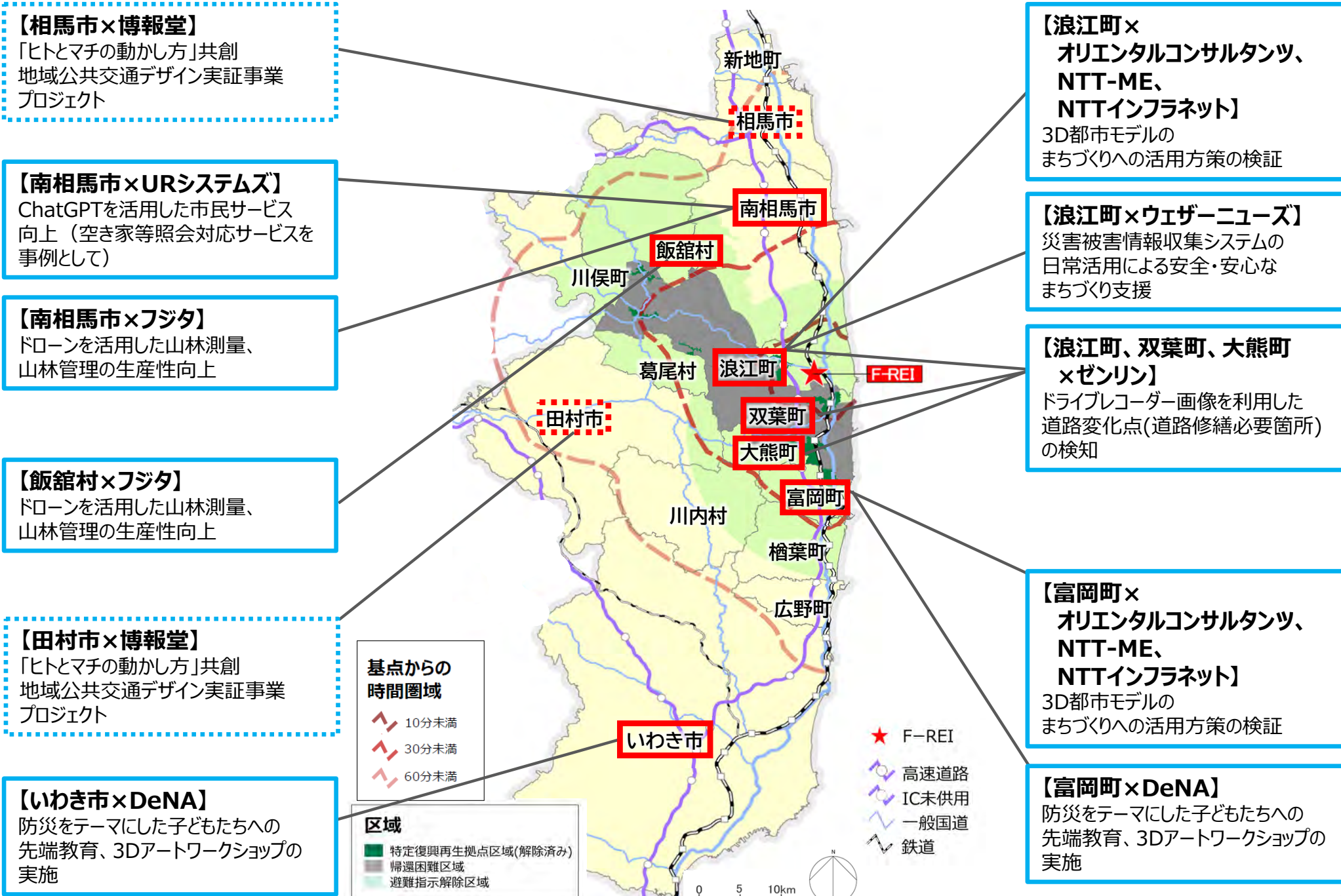
## 参加の主なメリット(自治体)

- ・民間企業の知見や財源を活用しながら、地域課題を民間企業と共に最新技術で解決する、**地元主体のまちづくり**を実感できる。
- ・未来のまちの姿に向け、地域住民が新品種・サービス・ビジネスモデルを使った**より良い暮らしを一足先に体験**することができる。
- ・実証から実装へ向けた展開を支援することにより、浜通りにおける**地域課題の解決**、ひいては**F-REI研究者受け入れ環境の向上**につなげられる。

## 参加の主なメリット(民間企業)

- ・地域住民が生活の中で抱える課題に即して、**新しい商品・サービス・ビジネスモデルの開発**を行うことができる。
- ・参加者募集や関係団体等との調整など、**受入自治体や復興庁、専門家の支援**が得られる。
- ・「福島復興」という**社会的意義のある目標**に貢献できる。
- ・技術的な課題について、**将来のF-REI研究との連携も視野**に入る。

# 浜通り復興リビングラボ【令和5年度実証事業マッチング結果】



# 浜通り復興応援ビジネスネットワーク（通称：チーム浜通り）

【目的】リビングラボ事業等を通じて、福島県浜通り地域等における復興の状況や復興施策など情報共有しながら、会員間での連携を推進する。

【パートナー】福島国際研究教育機構（F-REI）、福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島相双復興推進機構、UR都市再生機構、NEXCO東日本、[メタバース推進協議会](#)

【学術連携パートナー】[福島大学 地域未来デザインセンター](#)

【会員企業：計32社】 ※**赤字**はR5年度実証事業提案企業、**青字**は令和5年9月の設立時以後本日までに新規加入した企業

業種	社名	業種	社名
情報通信業・ITサービス	<b>(株)アルム</b>	建設業・住宅	會澤高圧コンクリート(株)
	<b>(株)ウェザーニューズ</b>		大林道路(株)
	<b>NTTインフラネット(株)</b>		首都高技術(株)
	(株)NTTデータ経営研究所		首都高速道路(株)
	<b>(株)NTT-ME (NTT東日本グループ)</b>		大成建設(株)
	<b>(株)ゼンリン</b>		大和ライフネクスト(株)
	ソフトバンク(株)		(一財)日本みち研究所
	<b>(株)DeNA</b>		パナソニックホームズ(株)
	<b>(株)電通国際情報サービス</b>		<b>(株)フジタ</b>
	MONET Technologies(株)		コンサルタント業
<b>(株)URシステムズ</b>	(株)アバンアソシエイツ		
サービス業	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	<b>(株)オリエンタルコンサルタンツ</b>	
	<b>(株)博報堂</b>	(株)構造計画研究所	
	(株)ベネッセコーポレーション	<b>国際航業(株)</b>	
	<b>(株)ヤママップ</b>	デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー(同)	
商社	住友商事(株)	その他	(一社)Ag Venture Lab
		<b>(株)スマートアグリ・リレーションズ</b>	

令和6年3月：リビングラボ事業の進め方の改善策を検討

令和6年4～5月：新規実証事業提案

- ①市町村から生活課題を民間企業に説明  
(オンライン)
- ②浜通り地域等見学ツアー (希望者)
- ③民間企業からの実証事業提案

令和6年6月：令和6年度第1回シンポジウム (マッチング会議含む)

※令和5年度に開始し、6年度も継続している実証事業で、シンポジウムまでに一定の成果が出ているものがあれば、その進捗状況報告も実施。

令和6年7月～：市町村・民間企業の個別交渉

交渉が成立したペアーから、実証事業開始  
(原則として令和7年度末まで)

# 【参考】浜通り復興リビングラボ 【大臣発言（抜粋）】

## 令和5年8月29日：第1回シンポジウム 開催のご案内

今年4月に設立された福島国際研究教育機構、いわゆるF-R-E-Iですが、その活動に参画する様々な研究人材等を、居住や滞在の形で立地地域や周辺地域に集積させていくためには生活環境の充実が必要です。

復興庁としては、これまでも各種復興事業を通じて被災地域の課題や多様なニーズに対応し、教育環境、交通アクセスなど必要な生活環境整備を支援してきたところであります。これらの復興事業に引き続き取り組むことはもちろんとして、今年度から新たな試みとして、民間の最先端の知見や技術、ノウハウを活用しながら、官民共創型で生活環境改善のための実証事業に取り組むプログラムを、福島県やF-R-E-I等と連携しながら試行的に開始します。

このプログラム、生活の場を実験場としてイノベーションを実践するものとして「浜通り復興リビングラボ」と呼んでいます。このリビングラボを通じて、生活環境向上のための官民パートナーシップが浜通りに形成されることを期待するとともに、今後、F-R-E-Iによる実証フィールド等を活用した研究開発の実施が想定される中、地域での効果的な実証研究受入れ方法等について、地元が知見を深める機会となることを期待しております。

## 令和5年9月22日：第1回シンポジウム 開催結果報告

前任の渡辺大臣が3週間ほど前に発表いたしました「浜通り復興リビングラボ」でございますけれども、9月19日にシンポジウムを双葉町で開催いたしました。このリビングラボは、民間の最先端の知見や技術、ノウハウを活用しながら、官民共創型で生活環境改善に向けた実証を行う取組でございます。地元では市町村ごとに多様な地域課題があるわけでございますが、リビングラボでそういった課題にきめ細かく対応することを目指しております。

このシンポジウムでは、官民共創やリビングラボのコンセプトについて、有識者からの御講演のほか、先進事例の紹介を行うとともに、技術力とともに志も高い民間企業から頂いた12の御提案を披露いたしました。また、参加者は浜通り地域等の15市町村や民間企業、F-R-E-Iや福島県庁をはじめとするリビングラボのパートナーの皆様など約140名に上り、関心の高さがうかがえました。

民間企業の皆様から頂いた12の御提案につきましては、今後速やかに浜通りの市町村との間で、実証事業の実施に向けて調整を行ってまいります。更にこのシンポジウムにおいて、浜通りの復興状況や復興施策などについて情報を共有しながら、民間企業間での連携を推進するため、官民共創の組織「浜通り復興応援ビジネス・ネットワーク、通称、チーム浜通り」を結成することを発表いたしました。リビングラボに提案いただいた民間企業に加え、関心表明いただいた民間企業の合計25社及びリビングラボのパートナーの皆様から御参加の表明をいただいております。

今後、官民で強気に連携しながら、復興庁としても様々な地域課題を抱える地元の皆様に寄り添い、浜通り地域等の生活環境整備にしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

# 【参考】第1回 復興庁シンポジウム「浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～」

- 「浜通り復興リビングラボ」の開始に際し、リビングラボや官民共創型事業の効果的な進め方等について知見を共有するため、シンポジウムを開催（約140名参加）。
- 同シンポジウムにて、民間企業14社によるリビングラボ実証事業12提案について発表するとともに、「浜通り復興応援ビジネスネットワーク（通称：チーム浜通り）」の結成についても発表。

○日時：令和5年9月19日（火） 13:00～15:00

○会場：双葉町産業交流センター ※オンライン併用

○参加者：福島15市町村（いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、  
広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、  
新地町、飯舘村）：40名（うち首長・副首長11名）  
民間企業：16社37名  
パートナー：30名（福島国際研究教育機構（F-REI）、福島県、福島イノベーション・  
コースト構想推進機構、福島相双復興推進機構、UR都市再生機構）  
復興庁関係：16名（開出福島復興再生総局事務局長、荒井福島復興局長他）  
その他（メディア、一般）：14名

## <民間事業者からの提案>

リビングラボ実証事業提案として**民間企業14社から12の提案**があった。

<提案一部紹介>

- 東日本電信電話(株)・NTTインフラネット(株)・(株)オリエンタルコンサルタンツ：DXを活用した行政・住民サービス事業の実証（例：AIカメラによる人流分析・防犯サービスへの展開等）
- URシステムズ(株)：ChatGPTを活用した市民サービスの向上とデータ収集活用（例：空き家問合せ応答システムの開発等）
- (株)ウェザーニューズ：極端化する気象現象を踏まえた安全・安心な街づくり支援
- (株)アルム：浜通り地域における基幹病院と診療所のDtoD遠隔医療体制の構築

## <浜通り復興応援ビジネスネットワーク（通称：チーム浜通り）結成>

【目的】リビングラボ事業等を通じて浜通り地域等における復興の状況や施策などの情報共有をしながら、会員間で連携を推進。

【パートナー】F-REI、福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構、  
福島相双復興推進機構、UR都市再生機構

【会員企業：計25社】※赤字はリビングラボ提案企業（14社）

(株)アルム	(株)ウェザーニューズ	NTTインフラネット(株)
(株)NTTデータ経営研究所	東日本電信電話(株)	(株)ゼンリン
ソフトバンク(株)	(株)ディー・エヌ・エー	(株)電通国際情報サービス
(株)URシステムズ	デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー(同)	(株)博報堂
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)		曾澤高圧コンクリート(株)
(株)ヤマップ	住友商事(株)	(株)アバンアソシエイツ
大成建設(株)	(株)フジタ	国際航空(株)
(株)オリエンタルコンサルタンツ	(株)構造計画研究所	東日本高速道路(株)
(一社)Ag Venture Lab	(株)スマートアグリ・リレーションズ	

## ○石垣参事官から「浜通り復興リビングラボ」の紹介

- ・今年度から実施する浜通り復興リビングラボの背景・目的・概要について説明。
- ・官民共創の組織「浜通り復興応援ビジネスネットワーク」の結成について発表。



石垣参事官の説明

## ○近藤早映 三重大学大学院准教授 基調講演

- ・リビングラボはヨーロッパから発展し、現在、多様なタイプがある。様々な視点を持つ多様な主体が、共通した目的・ビジョンを持ちつつ、各自の立場で動くことで新しいイノベーションが起きる。官民のみならず学も含めた連携も有効。



近藤准教授 基調講演

## ○先進事例紹介（富山県朝日町・神奈川県横浜市）

- ・朝日町：官民のビジョンの共有が重要。地域にある既存アセットや、思いやりの気持ちを共助のシステムとして活用し、公共交通等に取り組んでいる朝日町の経験を紹介。
- ・横浜市：高齢化等の課題に対応するためには、自助・共助では限界があることから、地域でお金を生みながらお金を回していく仕組みを官民連携リビングラボで作ってきた横浜市の経験を紹介。



朝日町の取組紹介  
（左：笹原町長、右：畠山氏）



横浜市の取組紹介（関口氏）



会場の様子

## ○パネル・ディスカッション

- ・官民が時間をかけてじっくり議論することが重要。
- ・住民が当事者意識をもち、いろいろな方が参加することが大切。
- ・地元自治体は住民参加のきっかけづくりなど、環境をしっかりと整備する。それがあってはじめて技術が活きてくる。
- ・各地の取組を共有し、ともに学びながら、日本発で世界に発信できるような取組になるといい。



パネル・ディスカッション

## 令和5年12月8日：第2回シンポジウム 開催のご案内

復興庁では、F-R-E-I や福島県等のパートナーと連携しながら、浜通り地域等において、民間企業等の最先端の知見や技術、ノウハウを活用しながら、官民共創型で生活環境向上のための実証事業に取り組むプログラム「浜通り復興リビングラボ」を本年度から開始しております。

地元では市町村ごとに多様な地域課題があるわけですが、民間の知見も活用しながら、リビングラボでそういった課題にきめ細かく対応することを目指しております。

今回、市町村の課題説明に応じ、民間企業14社から12の実証事業の御提案があり、これまでのところ7つの実証事業が、9市町村と民間企業9社の参加を得て実施されることになりました。官民で強力に連携しながら、復興庁としても、様々な地域課題を抱える地元の皆様に寄り添い、浜通り地域等の生活環境整備にしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。



# 【参考】浜通り復興リビングラボ 【大臣発言（抜粋）】

## 令和6年1月23日：第2回シンポジウム プログラムのご案内

### 実証事業 いわき市×DeNA 防災をテーマにした先端教育ワークショップのお知らせ

これまで何度かご紹介してまいりましたが、復興庁では、浜通り地域等における生活環境向上のための実証事業プログラム「浜通り復興リビングラボ」を今年度から開始しております。このプログラムは、民間企業等の最先端の知見や技術、ノウハウを活用するため、民間企業と地元自治体が強力に連携するとともに、F-R-E-Iや福島県等からも御支援を頂いて実施しております。

また、関連してですが、今年度のリビングラボ実証事業のうち、いわき市とDeNAの連携による「先端技術を活かした子どもたちへの防災教育」実証事業として、1月25日にいわき市立豊間小学校4年生を対象に、ワークショップが行われます。東日本大震災において豊間地域を襲った津波の高さと同じ高さの怪獣を3Dコンテンツで子どもたちが作成し、津波の大きさを体感してもらい、避難を促す教育プログラムの実証です。各地で災害が続くなか、子どもたちに先端技術に触れてもらいながら、防災教育につなげる重要な取組として、今後の展開に期待しております。

## 令和6年2月20日：実証事業 浪江町×ウェザーニュース避難訓練ワークショップ開催のお知らせ

これまで何度か御紹介してまいりましたが、復興庁では、浜通り地域等における生活環境向上のための官民連携型実証事業プログラム「浜通り復興リビングラボ」を今年度から開始しております。このリビングラボの実証事業の一つとして、浪江町とウェザーニュースの連携により、2月28日に浪江町住民を対象に避難訓練ワークショップが行われます。台風が直撃したとの想定のもと、ウェザーニュースの開発するアプリを用いて、住民と浪江町役場職員が被害状況を情報共有するなど、安全な行動を取るための迅速な情報共有の仕組みを学ぶ内容です。各地で気象現象が極端化する中、住民や役場職員が情報共有の仕組みについて平時から慣れることで、安全・安心なまちづくりを支援する取組として今後の展開に期待しております。

(問) 浪江町の取組も含めて、リビングラボの事業を実施することによってどういったことを復興庁として期待しているか、まちづくりにどのように役立てていけるとお考えか、そのあたりをお聞かせいただけますでしょうか。

(答) 先ほどもお話ししたとおり、このリビングラボのプログラムというのは官民連携型の実証プログラムでございまして、官だけが先行してまちづくりをするのではなく、民間が理解し、そしてまた、民間の皆さんの御要望に応えられるようなまちづくりをしていくために重要な施策だと思っております。それに沿うように、しっかりといろいろなテーマを決めてやってきたいと考えております。

